



令和6年度 7月の園だより

子どもは群れて育ってる

例年よりも遅くに梅雨入りしました。適度な雨は必要ですが、被害が起こらないようにと願うばかりです。どんよりとした空の日が続き、戸外で遊ばなくても、各保育室を見ていると、保育室の中でどろどろの粉を触っていたり、廊下で絵の具あそびが展開されていたりと、あちこちで子どもたちの楽しそうな歓声が響いています。(ぐっちゃぐちゃで職員の掃除は大変そうですが…) また、エアコンが壊れて1週間ほど第二みみように遊びに来ていた小さなみみよう保育園の子どもたちとも楽しく過ごしました。3階、4階フロアのお兄さん、お姉さんたちは随分と可愛がっていたようです。こうして、雨が降っても晴れても、いろんなことをして遊びながら今月も楽しく過ごしていきたいと思います。

さて、先月行われた運動会では、保護者の皆様がたくさんのご協力をいただきました。おかげさまで、怪我もなく、楽しい中で無事に終えられたことに感謝申し上げます。

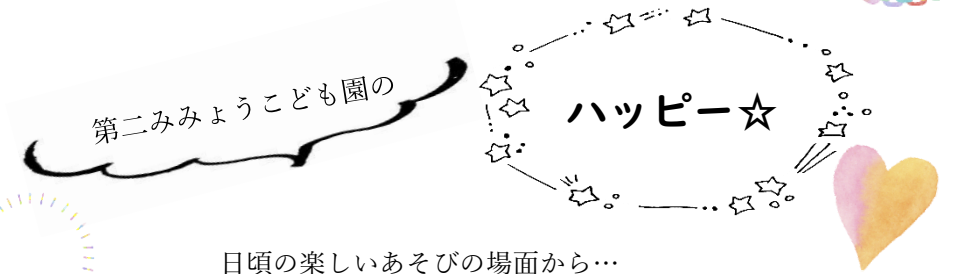
幼児さんのかけっこの時のことですが、途中で転倒して靴が脱げてしまった子どもがいました。見ていた私はどうなるのかとドキッとしましたが、その時一緒に走っていた友だちがすぐに駆け寄って、その子が靴を履くところまでを側で見届けてからゴールに向かい、靴が脱げてしまった子も、自分で靴を履いてから最後まで走ることができたのです。誰に言われるでもなく、友だちに自然と駆け寄っていった姿を見て、感動しました。大人があれこれ言わなくても、子どもには、こんな素敵な力があるのです。

新学期から3か月が過ぎて、子どもたちは自分の思いをさまざまな形で表現するようになってきています。特に、言葉でのやり取りが難しい1, 2歳児は、場所やモノを巡って衝動的に噛みついたり、引っ掻いたりというトラブルがよく起こり、保護者の皆様にはご心配をおかけしております。この時期は、「ここは私の場所」「これはわたしのモノ」といった『自分』という存在を強く感じる頃で、自己中心的な意識が強くなる、いわゆる自我の形成、拡大期にあり、人との関りを学んでいく大切な成長過程です。家庭の中とは違い、たくさんのお友だちがいる環境の中で、一緒にいて楽しいことだけでなく、思い通りにならないことやぶつかり合う経験をしながら、相手の思いに気づいたり、折り合いをつけたりということ、『自分』とは違う友だちから学んでいるのです。お友だちに噛まれた後などに、担任に抱っこしてもらって看護師のところに薬を塗りに来る頃には、にこにこの顔になっています。そして、何事もなかったかのように、さっき喧嘩したばかりの子と、またくっついて遊び始めるのです。大好きなお友だちなのでしょうね。子どもって大人が思うよりもずっとずっと自分で解決していく力を持っているのではないかと思います。大人の喧嘩はこういうわけにはいきませんから、子ども時代にたくさんの人と交わり、相手のことを考えられるようになることが大事ですね。今は心配をおかけしている関りも、左の運動会のハプニングの時のように仲間と乗り越えられるようになっていくものと思います。保護者の方が「今日も楽しかったんじゃね」と、安心してお子さんを預けられるように頑張ります。

7月は子どもたちの大好きな水あそびも始まります。しっかりと活動できるように、睡眠、朝ごはんはしっかりとるように気を付けてあげてください。

園長

第二みみようこども園



日頃の楽しいあそびの場面から…

子どもの心動く瞬間には、まわりのお友だちや大人の存在がとっても大切なんです！

園庭で始まったき組さんのジュース屋さん。
お友だちの楽しそうな様子に誘われて、あっという間に人だかりができていました。そして、子どもたちのいろいろな思いも溢れていましたよ。

それ、真似しよう



いっしょにしようや

どうやるんだろう？

こうやるんよ～

なのしてるの？

なんか楽しそう

やってみたい！



大好きな先生の声や、お友だちの笑い声を聞いて集まってくる赤ちゃんたち。小さな赤ちゃんも、楽しい雰囲気にはすぐに気付いて自ら関わろうとするたくましい姿があります。

いろいろな人との関わりを通して経験できる楽しさや喜び、時には悔しさ、不安などのいろいろな気持ちは、子どもの育ちの源です。

“第二みみようこども園”という大きな群れの中で、子ども一人ひとりが自分らしさを発揮しながら人とのつながりを広げ「人と関わるって楽しいな」「人が好き♡」の気持ちがたっぷりと育って欲しいと願っています。

主任